



Wi-Fi の豆知識

事務部 システム室

Wi-Fi とは

みなさまからの強い要望もあり、南多摩病院も 2022 年 2 月に Free Wi-Fi を導入致しました。Wi-Fi に接続すると携帯電話の通信料金を気にせず高速でインターネットを利用できるので便利です。

ところで、そもそも Wi-Fi とは何のことなのかご存じでしょうか？

インターネットが利用可能な電波というのは半分正解です。

Wi-Fi とは Wireless Fidelity（ワイヤレス フィデリティ）の略です。直訳すると“無線の忠実度”となります。つまり Wi-Fi とは無線 LAN※1の一種で、一定の水準を満たした無線 LAN 規格が Wi-Fi と呼ばれています。

無線 LAN が市場に出始めたころは、パソコンやルーターなどの各機器に独自の無線方式が搭載されていました。そのため、機器同士で無線接続できるかどうかは実際に試さないとなかりませんでした。

そこで、どの機器同士が接続可能か使用者にわかりやすいように誕生したのが、Wi-Fi です。同じ Wi-Fi 認証を受けた機器同士は接続可能だと一目でわかるため、無線 LAN 機器を購入しやすくなりました。現在、家電量販店で販売されている無線 LAN 機器は、ほぼ Wi-Fi 認証を得たものとなっています。

※1 無線 LAN とは機器同士を LAN ケーブルの代わりに無線（電波）で接続するネットワークのこと



現在主流な Wi-Fi 規格

無線規格名	Wi-Fi 規格名
IEEE 802.11n	WiFi CERTIFIED 4
IEEE 802.11ac	WiFi CERTIFIED 5
IEEE 802.11ax	WiFi CERTIFIED 6



南多摩病院の無線 LAN ルーター

Wi-Fi の電波の強い弱い



南多摩病院では各階廊下の天井に無線 LAN ルーターを設置しています。

無線 LAN ルーターの近くでは強い Wi-Fi 電波の受信が可能です。電波は直進で進み壁にぶつかることで減衰します。木製の壁は比較的電波を通しやすいですが、鉄製の壁は完全に電波を遮断してしまいます。院内では建物の端や壁に囲まれた場所では電波が弱く、エレベーターも鉄製で電波を遮断してしまうので、エレベーターホールも Wi-Fi が繋がりにくい環境となっております。

また、たくさんの通信が一度に行われると、通信負荷が掛かり、通信速度の低下につながります。比較的外来患者さまの多い午前中などは Free Wi-Fi も多く利用される傾向にありますので、速度低下が見受けられます。そのあたりもご了承の上、ご利用ください。

医療法人社団 永生会



南多摩病院広報誌

令和 5 年 6 月 第 38 号

みなみ じゅう し せい
南 十 字 星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111 (代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1



整形外科・骨折・上肢の外科センター

整形外科 いずみやま こう
泉山 公

南多摩病院の整形外科について

当院の整形外科では一般整形外科、肩から手指の上肢の外科の専門性の高い診療をさせていただくため、近隣の立川市の川野病院、昭島市の蓮村整形外科内科、国立市の田中整形外科、日野市のたいら手の外科・整形外科をサテライトクリニックとした上肢の外科センターで上肢外傷、疾患においては専門的に吟味をした治療を提供しております。

手外科専門医は常勤 3 名、非常勤 3 名の計 6 人が勤務する日本手外科学会基幹病院でもあります。

手の外科領域ではセンター化をしておりますが、肩こり、上肢のしびれ、腰痛、整形外科外傷も含め、一般整形外科の領域も診察させていただきます。



副院長・整形外科部長
泉山 公 医師



当科の痛みを中心とする症状に対しての治療指針

整形外科に来られる方たちのほとんどは痛みを主訴に来院されます。ほとんどの方が痛くて動かせないという経験をしていると思います。つまり、痛み自体が機能損失の原因となり得るということになります。除痛を外来で行うことは痛みを訴えて来られる方たちの日常生活動作の改善に大変役立ちます。

痛みのない生活と痛みのある生活どちらが良いといえば痛みが無いことがいいに決まっていると思う方がほとんどだと思います。私も外来での治療は痛みの体験を避ける手立ての提案や、その体験を最小限にするお手伝いが中心だと考えています。しかし、除痛のみを目的とすると、長期の局所安静による運動能力の低下、拘縮、知覚障害の出現、治療薬の投与で起きる腎機能障害、肝機能障害、眠気、吐き気、のどの渇き、その他多くの「害」つまり副作用や合併症が治療の途中で起きることがあります。痛みを中心とする症状の改善を得るには、治療の「益」を足し合わせて、そこから治療の「害」を引くというのが治療の指針です。

治療は医師と患者の治療に対する目標が一致していると効果が増大します。医療を提供する側と医療を受ける側との関係が良好でなければ症状の改善があったとしても改善していないと受け手は感じるでしょう。逆に関係が良好であれば、症状改善の程度が軽微であったとしても満足度は高いかもしれません。「害」ばかりを列挙するような否定の説明をしてから治療効果の「益」を説明するスタイルでは大抵の方は積極的な治療は望みません。



「年だから」、「変形しているから」などを理由に初めからあきらめるスタンスを私は好きになれません。年をとっていれば痛みがあって当然なのではないでしょうか。少しでも痛みが少ない状態、少しでも動ける状態を求めるのはごく自然な思考です。これは痛みなどの主観的な症状の正確な定義が存在していないことが理由です。逆に「益」ばかりが肯定されている場合もあります。

症状が存在するときは症状のなかった過去の自分をイメージしてしまいます。また、同世代の友人やテレビなどの情報をもとに自身の症状を比較して情報内容と同等に改善すると解釈している場合もあります。ネットやテレビで得た情報から症状の改善・消失をイメージしてしまうことはあると思います。しかし、このような比較は参考になりません。サプリメントを推奨する場合もあり、そのようなサプリメントや他の民間療法を否定するものではありません。マスコミの情報の中には完全に吟味できておらず、都合の良い一部データの結果から主観・希望的観測に基づき結論づけているものが多く、さらに、意図的に症例をピックアップして効果が得られるように情報を提供しているものも認めます。

私たちは来院された方々の個々の状態を把握したうえで治療提案を行います。治療内容に同意が得られなければもちろん行いません。その際は治療をしなかったことで生じる機会損失も説明したうえで、他の治療法を提案します。

来院された個々の方々の要望にできるだけ応え、来院された方々が最大限の「益」を得られるように治療の質の向上・満足度の向上を念頭に診察を行っていきたいと考えております。



眼科からの お知らせ

眼科には、低視力の方や白内障などで見えにくさの問題を抱える方が来院されます。

そこで、通常白地に黒文字（赤文字）で書かれているカレンダーを反転させた白黒反転カレンダー（2023年7月～12月）を4種類作成しました。

詳細・ダウンロードについては南多摩病院ホームページの眼科ページに記載しております。下記のQRコードまたはURLからご確認いただき、ぜひご活用ください。

白黒反転（日祝日赤字）

白黒反転

2023年（令和5年）7月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2023年（令和5年）7月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



<https://www.eisei.or.jp/minamitamata/clinic/ophthalmology/>



内視鏡装置の構造について

臨床工学科

当院の臨床工学技士は透析室、心カテ室、手術室、医療機器管理室、内視鏡室での業務に携わっており、様々な機器を取り扱っています。今回は内視鏡室で胃と大腸カメラの検査を行う際に、使用する機器についてご説明したいと思います。

内視鏡装置

内視鏡装置は「写真①」のように、大きく分けてビデオスコープとビデオシステム（ビデオ画像プロセッサ、光源装置）の2つに分けられます。

ビデオスコープ

ビデオスコープは「写真②」のように接続部・操作部・挿入部・先端部から構成されています。

接続部はビデオシステムへつながり、画像がカラーモニターで映し出され、操作部はアングルノブや吸引ボタン、送気・送水ボタン、鉗子口がついています。

先端部は送気・送水ノズル、対物レンズを通じて画像をとらえるためのカメラなどが埋め込まれています。



「写真③」

先端部の構造とそれぞれの機能の詳細は上図をご覧ください。

また、経鼻と経口スコープには「写真③」のような太さの違いがあります。当院の胃カメラ検査では経鼻スコープを口から入れて検査をしているため、入れた際の苦痛が軽減されます。

ビデオシステム

ビデオシステムにはFUJIFILM社のビデオ画像プロセッサと光源装置を使用しています。その他に、炭酸ガス送気装置（二酸化炭素を送気する）や送水装置（体内に送水する）などが周辺機器として備わっています。

ビデオ画像プロセッサ

内視鏡の心臓部分であり、ファイバー先端から得た画像情報を処理しカラーモニターに映し出します。撮影した画像は有線LANから電子カルテへ転送され、検査終了後に見ることができます。

光源装置

光を発生させる装置です。光源にはLEDを使用しており、発生させた光をファイバー先端まで届け、真っ暗な胃や大腸を照らすことで観察することができます。



医師、看護師と共に患者様が安心して検査を受けることができるよう日々安全管理に努めています。

